

都市の将来イメージ



戦略01関連
持続的な成長を生み、
活力にあふれる拠点を形成

FUTURE IMAGE

社会経済情勢が更に大きく変化していく中でも、東京は、環境負荷の低減や誰もが活躍できる社会を実現しながら、国際的なビジネス活動をダイナミックに展開するとともに、多様なイノベーションを創出し、日本の活力をリードしていきます。



(国際的なビジネス活動が繰り広げられている区部中心部)

先鋭的なデザインと歴史的な街並みが融合した国際ビジネス交流ゾーンでは、世界トップレベルの企業や多様な人材が集まり、活況を呈しています。

金融や創薬など、高い付加価値を生み出す産業に従事するビジネスパーソンが、様々な国の人々とホログラム*などの先端技術を使いながら商談を行い、公共空間で行われる芸術活動を楽しむなど、活発な都市活動を展開しています。



(若い留学生や研究者たちが集まり、イノベーションが生まれる多摩地域)

大規模団地のリノベーション*や道路空間の再編により、良好な居住環境が整う多摩イノベーション交流ゾーンでは、若い留学生や研究者が、最先端技術を駆使したロボットや航空関連などの研究開発を行っています。

地域を縦横に結ぶ道路を生かした交通利便性の飛躍的な向上により大学や企業、研究所などの連携が促進され、ベンチャー企業や最先端技術を有する企業の立地が進んでいます。

現状と将来の見込み等

- 東京圏の人口及びGRP*の規模は、世界の四大都市圏の中で最も大きくなっています。(図1-1)
- 従来の中核拠点や生活拠点に加え、開発等により高度な機能集積が進んだ地域や今後新たに個性を発揮していくと考えられる地域が数多く形成されつつあります。
- 区部中心部の各拠点においては、業務機能の集積が着実に進んでいる一方、業務ビルの高経年化も見られ、これらのストックの有効活用が求められています。(図1-2)
- 多摩地域においては、企業や大学などの研究機関や、高速道路のインターチェンジ周辺に物流施設が立地し、ものづくりをはじめとする産業のイノベーションを生み出す素地が形成されています。

図1-1 都市圏で比較する東京と世界の大都市(現状)

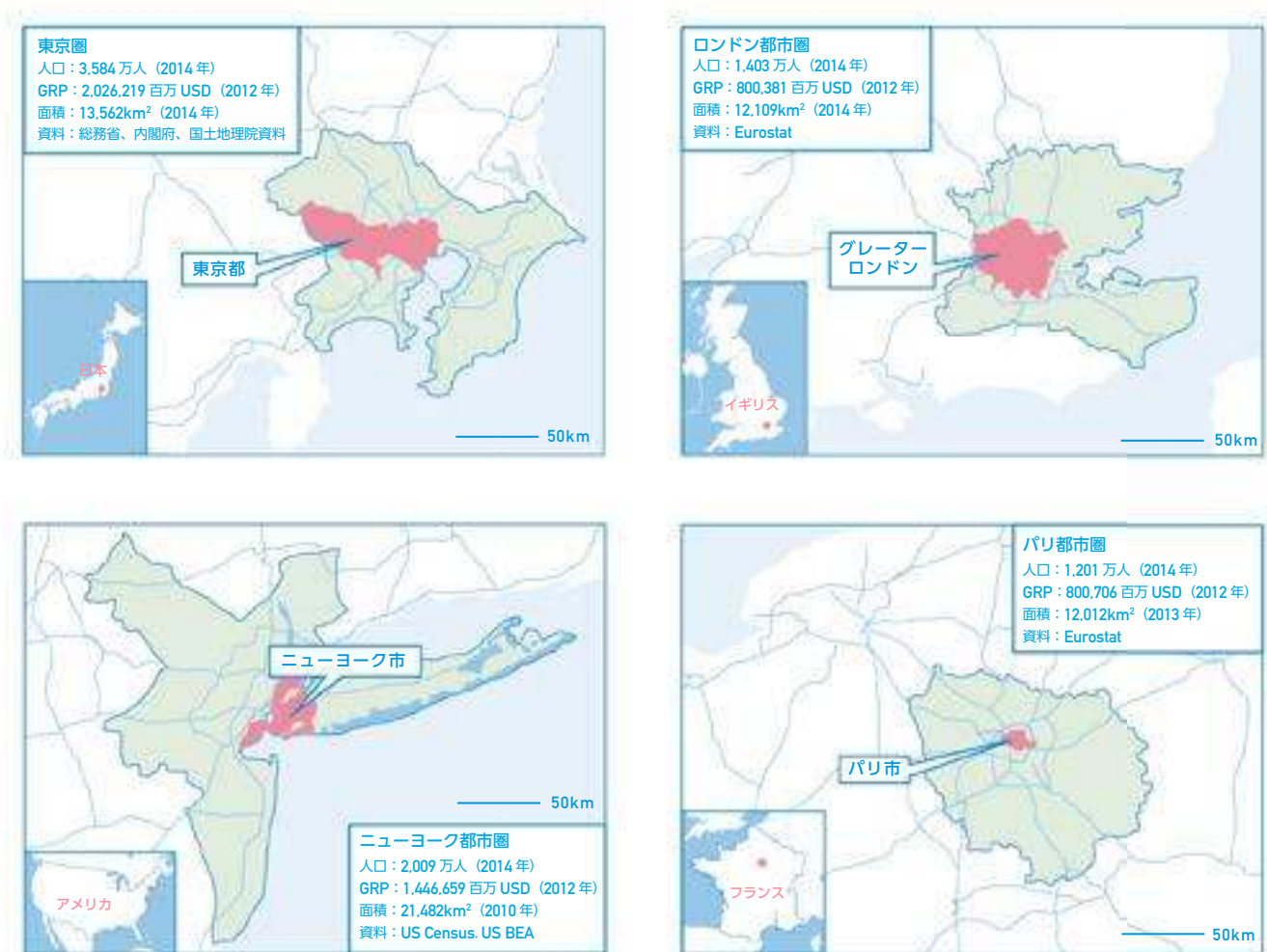


図1-2 区部中心部の業務機能の集積状況

凡例



(資料)「土地利用現況調査」
(平成3、23年度)から作成

※大手町、丸の内、有楽町、内幸町、霞が関、永田町、日本橋、八重洲、京橋、銀座、新橋

都市の将来イメージの解説

キープラン



解説

- ① 最先端の金融ビジネスオフィス
- ② 安らぎや憩いの場となる路上のオープンカフェ
- ③ ニーズに応じた情報を提供するデジタルサイネージ*
- ④ 歩道と一体的に利用できるにぎわいを生む公開空地
- ⑤ 多国籍な投資家やビジネスパーソンの交流
- ⑥ 道路上空を活用し歩行者用のデッキを備えた建物
- ⑦ 安全で快適な自動運転車
- ⑧ 開発により生み出された緑が連なる都市空間
- ⑨ 保全された歴史的価値の高い建物
- ⑩ プロジェクションマッピングを活用した広告
- ⑪ オフィスビルに併設された子育て支援施設
- ⑫ 観光客を楽しませる路上パフォーマンス
- ⑬ CO₂を排出しない燃料電池バス
- ⑭ 歩道にリメイクされた高架道路



- ① イノベーションを創出するインキュベーション施設
- ② 最先端の技術も使い複合的な機能を持つ物流施設
- ③ 地区で共用し効率的に使える荷さばきスペース
- ④ 公的住宅をリノベーションした学生寮
- ⑤ 空き部屋をコンバージョン*した子育て支援施設
- ⑥ 自動運転車を導入したフィーダー交通
- ⑦ 自転車や小型モビリティを使い誰もが移動しやすい交通環境
- ⑧ ホログラムを使いまちなかで討論する留学生
- ⑨ ビジネスマッチング*の場となる公共空間
- ⑩ 朝採れ野菜を販売するマルシェ